



## 『 肺の生活習慣病（COPD）について 』

---

COPDという病気についてテレビなどで聞いたことはありますか？

以前は慢性気管支炎、肺気腫と言われていた病気の総称です。別名「タバコ病」と言われており、その原因のほとんどが長年にわたる喫煙にあると言われていています。

厚生労働省の統計によるとCOPDによる死亡順位は男性で高く、2016年で第8位でしたが、今後その順位は上がってくると予測されています。

症状としては、「息切れがする」「咳や痰が続く」「動くとドキドキする」「風邪を引きやすい」などが挙げられます。

当院でCOPDと診断を受けた患者様から話を伺うと、これらの症状が「年のせいだと思っていた」と言われる方が多く、病気のサインに気がつきにくいのも特徴だと言えます。COPDは進行性の病気であり、息が苦しいので動くことをためらい、動かないので食べる量が減り、体力が落ちるので呼吸の筋肉も衰え余計に苦しくなるといった、負の連鎖を起こしてしまいます。COPDは、治る病気ではありません。負の連鎖を断ちきるために、禁煙はもちろんのこと。息切れを軽くする生活の工夫が大切になってきます。



鹿児島厚生連病院  
慢性呼吸器疾患看護認定看護師

原田 香織